

日刊 勤労千葉

84. 3. 9

No. 1584

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

『三里塚-国鉄』決戦勝利 へむけ 60名で支部学習会

勝浦支部

~~~~~

勝浦支部は、二月二七日、国鉄勝浦職員集会所において学習会を開催し、政府・国鉄当局による臨調攻撃を粉碎し、職場での主導権確立に向けて組合員一人ひとりが闘うための意志結集をはかりました。

学習会は、講師に水野本部副委員長をまねき、組合員六〇名が参加して熱心に学習し、成功裡のうちに終了しました。

### 支部通信員・発

#### 水野副委員長を講師に、国鉄情勢を学習

水野氏は、まず国鉄の現状にふれ「59・2ダイ改の終った時点で公式には、二万名、非公式には三万名の『過員』が生じている。このように無展望かつ強権的に仕事だけを切り捨てたために生じた『過員』に対して、当局は、メチャクチャな強制配転や増収活動、雪かき要員などに動員するという提案をしてきている。そして、国鉄当局には、一九九〇年までに二五万人にまで削減することを狙っている。そのために『第二の定員法』まで検討している。そのような情勢の中でわれわれの勝ちぬく道は、組合員一人ひとりが理論武装して、全国的な政治闘争と結合して、中曽根政権そのものをうち倒していくことである」と、闘いの方向性を鮮明に提起しました。

そして「マル生運動と今日の国鉄合理化」と題して、①第二次大戦後の日本における合理化、

~~~~~



「国鉄赤字」の本質、④臨調・行革攻撃の行きつく先、⑤どう闘うか、についてわかりやすく講義がすすめられ、全員確信を深める事ができました。

学習会の成果をバネに、全員で3・25へばく進する

最後に「勝利の展望」について、一つはどんなに苦しくても原則を死守して闘い、労働者が職場を實力で守りきること、二つめは、政治的闘いの高揚の中で労働者の利益が守れる、そのためには3・25三里塚現地闘争をかちとらなければならぬことが確認され、二時間半にわたる学習会を終了しました。支部では、この学習会の成果にふまえて、現在、支部の総力をかたまわけて、3・25三里塚五割動員の実現にむけて全員で奮闘中です。

いつまでかあえ気ぞ！

退職者 勝浦支部で 激励会

二月二七日、勝浦支部は、今年度ももって退職される六名の退職者の激励会を、勝浦駅前の清水館において、84名の支部組合員の参加をえて盛大に開催しました。

激励会は、鶴岡支部書記長の司会で、組合員の拍手のなか、退職を予定されている六名の先輩が入場して開会されました。

鶴岡支部長および水野本部副委員長よりそれぞれ、太平洋戦争末期に国鉄に就職し、終戦後の激動期を、あるいは動力の近代化の中でがんばってこられたこれらの先輩に対するねぎらいがのべられるとともに、臨調攻撃でうばわれた乗車証等を奪いかえすためにも

団結して闘う決意をこめたあいさつがのべられました。

退職者を代表して久我仲氏は「私達は、それぞれ、昭和18・19年に就職しました。その間、苦しかったこと、楽しかったこと、また、皆様にも御迷惑をおかけしたことなど、色々とおもひ起こされます。それでも大過なく今日までこれたことは、ひとえに皆様のおかげです。情勢の厳しいおりから、より一層の団結を固めていって下さい。私達もがんばります」とのあいさつをうけたのち、屋代寛氏の音頭でカンパイが行われ、歓談にうつっていききました。

最後に、全員スクラムを組んでの組合歌合唱、退職者一人ひとりを胸上げで名残り惜しみつつ、盛会であった激励会・送別会を終っていききました。



【支部通信員・発】